

第 1172 回放送分『眼科疾患』3 回目

ゲスト：田中 最高ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「眼科疾患」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 田中 最高（たなか よしたか）ドクターです。
田中さん、よろしくお願いいたします。

田中最高Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は白内障についてお話しいただきました。
白内障は、目の中の水晶体というレンズが濁ることで起こり、
目のかすみ、まぶしさなどの症状があって、
進行すると視力低下が顕著になるということでした。
そのため年に 1 回の散瞳検査をすることが理想的であるというお話でした。
今日は何についてお話しいただけますか？

田中最高Dr.

今日は緑内障についてお伝えいたします。
緑内障は、眼圧によって目の神経が傷んでしまうもので、
日本人の失明原因の第 1 位となっている、非常に気をつけるべき病気です。

二見いすず

第 1 週目で、緑内障になる方の人数がかなり多いという話をお聞きしましたが、
改めてどのくらいの方がなるのか教えてください。

田中最高Dr.

緑内障は 20 人に 1 人、ただしこれは 40 歳以上での割合なので
60 歳をこえると 10 人に 1 人という割合になります。

二見いすず

10 人や 20 人に 1 人という割合だと、
自分も含めて、同僚や友人にも数名いるというような感じですね。

田中最高Dr.

はい。緑内障はだいたい症状が進行しないと気づきにくい病気です。
以前もお伝えしましたが、私たちはふだん両目で見ているので
片方の目の異常に気づきにくいです。
さらに緑内障は中心の視野が最後まで残りやすいので、それも気づきにくさの理由になっています

二見いすず

そうなんですね。白内障は散瞳検査をするということでしたが、緑内障はどんな検査をするのでしょうか？

田中最高Dr.

白内障と同じく散瞳検査も行いますが、近年は特殊な波長の光を用いた OCT（眼底三次元画像解析）という検査が重要になっています。

散瞳検査とは違って、こちらはあまりまぶしさを感じません。

自分では気づきにくい緑内障ですが、この検査をすることで初期の緑内障も発見できます。

早く発見できればできるほど進行を遅らせやすくなるので、40 歳を過ぎたら検査することをおすすめします。

二見いすず

初期で発見できるのなら検査の大切さがよく分かりますね。

治療はどのようなことをするのでしょうか？

田中最高Dr.

一般的には目薬を使いますが、それで眼圧が下げられない場合は手術やレーザーになります。

残念ながら高度に進行してしまった場合は、治療以外にも日常生活の手助け、白杖などの使用や障害者手帳の申請などをサポートしていきます。

二見いすず

緑内障になりやすい人の特徴というのはあるのでしょうか？

田中最高Dr.

遺伝的なものもありますので、

ご両親やご兄弟で緑内障になった方は特に注意されてください。

二見いすず

よく分かりました。

今月は、「眼科疾患」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 田中最高ドクターでした。

田中さん、ありがとうございました。

田中最高Dr.

ありがとうございました。